

# 趣味部



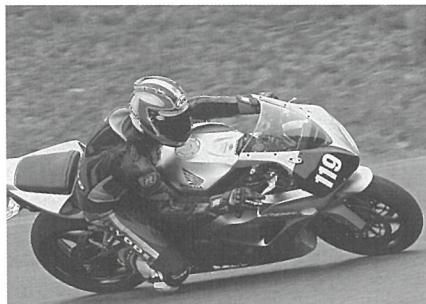
東海地方に初雪の舞う、昨年の師走のお忙しい時期にお時間をいただきお話を伺いました。今回、趣味についてお話くださったのは、多彩な趣味をお持ちの株式会社アメニティライフ（〒498-0015 弥富市海老江1丁目56番地 電話 0567-65-3101）代表取締役社長 堀川康俊さんです。

■いくつかの趣味をお持ちと伺いましたが、今日はその中でもどんなお話をお聞かせいただけますか？

堀川 そうですね、それでは少し前にとてもはまっていて、現在も継続しているバイクのお話をします。

■バイクですか。バイクというとオフロードとかオンロードとか種類があると聞きますが、どちらですか？

堀川 両方ともやっています（笑）。



## 41歳で再び大型バイクに挑戦! オフロードもオンロードも満喫



(尾張西支部)  
株式会社アメニティライフ  
代表取締役社長

### 堀川 康俊 さん

スには参加することがありますが、直線ストレート200キロ以上、カーブで90～120キロで走行する感覚は格別です。サーキットでしか体験できない200キロオーバーも体感しました。



愛車“隼（はやぶさ）”で時速299キロを体感しました。

■299キロ…新幹線以上ですね。

堀川 300キロというスピードを体感したいために“隼（はやぶさ）”というバイクを買いました（笑）。299キロ出た時には、視界が狭くなり、言葉では表現できない感覚でしたね。

■壁もないのに299キロ…まさに体感ですね、想像できません。それほどの体験のできるサーキット、走るために特別な何かが必要なんですか？

堀川 走るためにはそれなりの準備が必要です。マシンの整備はもちろん、MFJ（一般財団法人 日本モー



ターサイクルスポーツ協会)認定のレーシングスーツ、ヘルメット、グローブ等の着用など約束事があります。それに体調管理やメンタル面が大きく影響しますから、体調を万全にして臨みます。

■心身共にコンディションを整えなければいけないんですね。先ほど、オフロードもなさるとおっしゃっていましたが。

堀川 仲間と舗装されていない道を走る林道ツーリングにも行きます。サーキットでは体験できない楽しみがあります。以前仲間と行った林道ツーリングで、友人が5mくらいの崖を落ちてしまいました。怪我がなかったので笑い話で済みましたが、一歩間違えたら大変なことになっていました。バイクはオフもオンも危険と隣り合わせです。ただこの緊張感も魅力の一つです。

■お話を伺っていると、バイク全般



がお好きなんですね。バイクは何台もお持ちなんですか？

堀川 いちばんはまっていた頃には年に6台くらい乗り換いました。現在も2台持っていますが、家族や会社のスタッフから危険だと止められているので、安全面を考慮して年に1~2回気晴らし程度にサーキット走行を行っています。

### クリスマスにホールインワンを

■では、現在はまた別の何かに凝つてらっしゃる？

堀川 ゴルフですね。友人に勧められて始め、キャリアは20年くらいありますが、本格的にはまったく2年くらいです。

■何かきっかけがあったんですか？

堀川 同じ町内で喫茶店などでもよく一緒になる3つ下の後輩とゴルフに行くことが多くなり、すっかりゴルフの楽しさに目覚めました。先日、愛産協3支部合同コンペで、GPSの測定でロングで300ヤード飛びました。

■バイクで体幹が鍛えられているんでしょうか、かなりのパワーですね。

堀川 子どもの時からサッカーやバレーボール、空手など様々なスポーツを経験してきて、運動神経には自信がありますが、やはりバイクで鍛えられたところも大きいと思います。

私の持論ですがゴルフのうまい方は会社経営のうまい方が多いように思います。目標を設定してマネジメントしていく、目標へのプロセスを具現化していく能力が高いのだと思

うので、頑張ってみたいと思います。

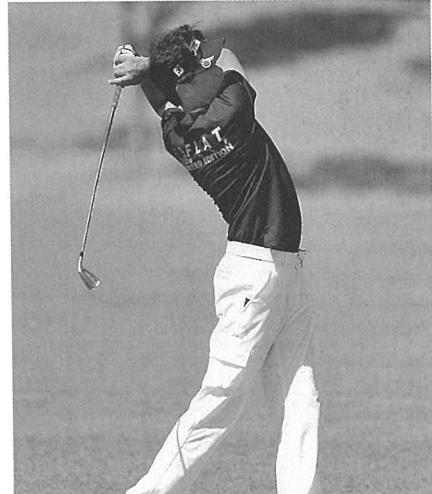
■そういえば、来年コンペを主催されると伺いました。

堀川 はい。実は先日のクリスマスにホールインワンをしたので2014年3月にコンペを開催しようと思っています。メンバーの目標は120名です。

■ホールインワン、すごいですね。

堀川 調べてみるとプロがホールインワンをする確率は3700分の1、アマチュアでは43000分の1だということで、私自身かなり驚いています。

■すごい確率ですね！ 今日のインタビューではいろいろな数字に驚かされっぱなしでした(笑)。今日はお忙しい中ありがとうございました。コンペのご盛会をお祈りしています。



今回のインタビューは、堀川氏のバイクやゴルフを楽しんでいるお写真も拝見しながらお話を伺ったので、とても具体的にイメージができ、わくわくさせていただきました。お仕事がお忙しい中、ご自分の趣味も充実されているところが素晴らしいと思いました。